

# 役員企業訪問

## 第21回 本会 梯 輝元 理事 (魚町商店街振興組合 理事長)

今回は、梯輝元理事の企業である中屋興産株式会社を1月中旬に訪問しました。梯社長に、企業の概要及び今後の展望、並びに組合の取り組みを語っていただきました。



梯 輝元 理事長

### 会社概要

会社名：中屋興産株式会社

設立：昭和42年1月

代表者：代表取締役社長 梯 輝元

所在地：〒802-0006

北九州市小倉北区魚町三丁目3番20号

T E L : 093-531-0331

F A X : 093-521-3939

### 魚町商店街がSDGsアワード内閣 総理大臣賞を受賞

—SDGs内閣総理大臣賞の受賞、おめでとうございます。今、いろいろとお忙しいでしょうね。

梯：12月20日に首相官邸で授賞式があって、今、取材や原稿作成などで追われています。SDGsは、環境や貧困問題、教育など多様な概念を含んでいますが、長い間、魚町が持続可能な街づくりに貢献してきたことを評価していただきました。

—具体的には、どのようなことを行っているのですか。

梯：2010年に立ち上げた北九州家守講座が始まりました。家守というのは江戸時代の長屋の大家の呼び名なのですが、店主たちが行政・地域住民等と連携して、空き家等をスモールオフィスなどに変えて起業家や個人事業者を入れ、新しい事業を興すことを目的にしています。今は株式会社北九州家守舎となって、シェアオフィスだとかシェアハウス、それからタンガテーブルという、韓国人観光客に向けた46ベッドのゲストハウスも経営しています。

当社のビルも、2011年以降インキュベーション施設も運営していて、ここでいろいろ勉強してもらうべくようだったら商店街に出店してもらったりして、今3店舗がそういう形で出店しています。ビルの1階では築上町の方が野菜を売っています。

また、地下には「まなびとESD (Education For Sustainable Development) ステーション」という大学関連携教育施設を設置して、北九大など10の大学に入ってもらっていろいろな街づくり活動とかボランティア活動とか商店街と一緒にやっています。講義を聴くだけでなく、実際に行動してもらうことで、まちづくりに対する知見を高めています。

—北九州リノベーションまちづくり推進協議会も立ち上げていらっしゃるんですね。

梯：2011年に、中心市街地の遊休不動産の再生を目的に、単なるリフォームではなくて、ソフト事業も組みこんだ街づくりを学ぶリノベーションスクールを開講したのですが、今、これが全国50か所の商店街に広がって、週一くらいの割合でどこかで開催しています。久留米も実施していますし、



黒崎も2月に実施しました。こちらもいろいろなところに呼ばれて、講師などもやっています。

## 明治時代に徳島から北九州に

—理事長は小倉のご出身ですか。

**梯：**曾祖父が、製鉄などでこちらの景気が良かったので、明治の終わりごろに徳島から移って来て、最初若松で商売を始め、大正時代に魚町に来ました。もともとメリヤスなどを売っていて、それから金物屋や電気屋を経営して、昭和46年にこのビルを建てたので、数年後に電気屋をやめて、昭和50年初めくらいから貸しビル業に転換しました。

このあたりは、もともと地の人はいなくて、軍需工場の関係でいろいろな所から集まって、3代目、4代目の人が多いのですが、先進性があるというか暴れん坊というか、小倉祇園の時など盛り上がりますね。

—理事長職もいろいろ兼務されていますね。

**梯：**魚町商店街とサンロード商店街、それに福岡県商店街振興組合連合会の理事長もやっています。青年部の頃から20年くらいずっとやっていますね。

2月15日から29日までは小倉中央商業連合会主催の食市食座があって、今、準備が大変です。連合会には旦過市場や井筒屋さんも入っていますが、商店街が百貨店と一緒にイベントなどを行っているのは全国的にみてもあまり例がないですね。

## 2030年に向けてSDGs構想を推進

—以前にも増して活気が出てきたような気がします。

**梯：**おかげさまで、リーマンショックが起きた2008年から2009年ごろは、一番通行量が少なく、一日の通行量が11,000くらいまで落ち込んでいましたが、今13,500人くらいに回復しています。いろいろな取組みによって徐々に通行量を増やして行って、今、空きビルなどができると、外部から資本が入って解体して新しいビルを建てるというようなステージに入ってきました。米七さんという呉服店は建て替わって飲食店が集



中屋ビル1階の全景

まったヒカリテラスというビルになりましたし、丸源ビルも30年くらいぶりに所有者が変わって建て替わっています。旦過市場も来年くらいから再開発を始める計画です。

—今後の構想は。

**梯：**魚町がその一助となって、SDGsの思想を広めていくことです。SDGsの認知率はまだ低く、北九市内では18%くらい、魚町はいろいろ取組んでいるのでその倍の36%くらいあります。2030年までSDGsに取組んで、商店街のアイデンティティを固めたいと考えています。お客様にもものを買うという以上のベネフィットを提供する、具体的には、魚町で買えば社会貢献にも参加できる、というようなこともそのひとつです。今、フェアトレードの商品を仕入れたり、賞味期限間近な商品を販売したり、農家から直接規格外の野菜を仕入れたり、といろいろなことをやっています。

インタビューを終えて

この10年くらいほとんど魚町を訪れる機会がなかったのですが、久しぶりに歩いてみて、たしかにずいぶん雰囲気が変わったという印象を受けました。当時は大型のドラッグストアや百均の店舗が目立っていましたが、今は野菜直売店やイートインできる間口の狭いパン屋さんも人気の様子で、通りには楽しさが増し、理事長を中心とした粘り強い活動の成果を感じる事ができました。

(中小企業診断士  
 蘭田久恵)

